

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の3年目)

1. 研究課題

転換期中国における社会経済制度

Social and Economic Institutions in China during the Period of Transition

2. 研究代表者氏名

村上 衛

Ei MURAKAMI

3. 研究期間

2016年04月 - 2019年03月 (3年度目)

4. 研究目的

本研究班は中国において社会・経済を規定してきた慣習・常識・規範・秩序・行動様式といった固有の「制度」が転換期(1980年代以降、清末民国期、明末清初期)において、どのように維持され、あるいは変容してきたのかを検討する。

近 20 年の中国の高度成長の中で中国経済の世界経済に占める割合は高くなり、経済水準は大幅に上昇した。しかし、中国経済の拡大と人的交流の増大にともない、中国固有の「制度」が顕在化する場面も増えてきており、それらを理解できない外国人との間で様々なレベルの摩擦が生じている。この問題解決のためには、中国固有の「制度」を理解することが重要になっている。

また英語圏におけるグローバル・ヒストリー研究は比較史研究を活性化させたが、19世紀以降における西欧と中国の「大分岐」あるいは日本と中国の「小分岐」についての説明は十分にできていない。それは、これらの「分岐」の背景にあるそれぞれの地域の社会経済「制度」の違いを理解していないからである。かかる歴史的な課題の解決のためにも「制度」の研究の必要性はますます高まっている。

本研究班では転換期において様々な衝撃のなかから顕在化してくる社会経済「制度」を多角的に検討し、その研究成果を広く発信していくことを目指す。

5. 本年度の研究実施状況

本年度は3年計画の3年目にあたり、合計18回の研究会を行った。毎回の参加者数は20~25名ほどで、本学文学研究科の院生をはじめとする若手の班員からも積極的な参加と発言を得た。本研究班は時代的・テーマ的に広い範囲を扱うため、中国近現代史研究者のみならず、明清史研究者や現代中国研究者、また人文科学系だけではなく、社会科学系の経済史研究者に参加していただいている。コメンテーターは関西に限定せず、首都圏や松江・鹿児島などの各地から報告テーマに即した研究者を招聘した。いずれの報告に関しても活発に討論が行われ、報告・討論の時間を合わせて3時間半近くになることもあった。なお、本研究班では定例の研究会に加えて班員による出版書の書評会(2018年6月24日、上田貴子著『奉

天の近代 移民社会における商会・企業・善堂』)を行い、中国の「制度」をさらに多角的に研究する機会を設けた。

6. 研究成果の概要

本研究班は2016年4月以来、3年にわたり50回の研究会を開催し、延べ1200人の参加をいただいた。研究班のテーマが社会経済制度という大きなものであるため、報告者の扱う時代は明清時代から現在までにおよび、専門分野も人文科学系だけではなく、社会科学系に及んだ。幅広いテーマを扱ったが、報告テーマに近い研究者を国内各地からコメンテーターとして招聘したこともあり、専門的な議論を行うことができた。その報告内容はすでに論文として公刊されているものも多い。また、人文研をはじめとする研究機関を受入機関として関西に長期滞在している外国人研究者にも積極的に参加いただき、報告を通じて国際的な学术交流を深めることになった。大学院生には修論・博論の構想を報告していただいたが、報告した院生達はその後、修士号・博士号を取得し、国内外で活躍している。以上の定例の研究会のほか、班員の著書の書評会を4回、講演会を1回開催し、研究班とは別の角度から制度の議論を行うことができた。研究班の成果論文集の原稿は来年度をめどに集め、その後、出版する予定である。

7. 本年度の研究実施内容

2018-04-27

順治十年正月の『刑科史書』からみた清初刑部の一側面

発表者 王天馳 文学研究科

コメンテーター 谷井陽子 天理大学

2018-05-18

"Adulterated" Chinese Tea on the Late 19th-Century US Market: Producer Connivance or Consumer Prejudice?

発表者 Robert Hellyer ウェイクフォレスト大学(日文研)

コメンテーター 古田和子 慶應義塾大学

2018-06-01

清朝在外公館における西洋人スタッフとそのメディア活動——D.B.マッカーティの琉球帰属問題をめぐる言説を中心として

発表者 Thomas Barrett 東京大学

コメンテーター 箱田恵子 京都女子大学

2018-06-15

長崎の聖堂と孔子廟——日中の近世・近代を考える

発表者 岡本隆司 京都府立大学

コメンテーター 彭浩 大阪市立大学

2018-06-29

北鬼氏〈大清憲法案〉訳読報告

発表者 彭劍 華中師範大学

コメンテーター 村田雄二郎 同志社大学

2018-07-13

清代学政規制与皇権体制

発表者 安東強 中山大学

コメンテーター 狭間直樹

2018-07-20

民国初期、上海共同租界における犯人引き渡し交渉について

発表者 郭まいか 文学研究科

コメンテーター 孫安石 神奈川大学

2018-10-05

民国期中国における水産人材育成の模索

発表者 楊峻懿 人間環境学研究科

コメンテーター 佐々木貴文 鹿児島大学

2018-10-19

杜亜泉の言説における社会主義——社会主義と文明の調和

発表者 李ハンキョル 文学研究科

コメンテーター 石川禎浩

2018-11-02

1930年代南京国民政府の借款とその帰結 —棉花からみた棉麦借款

発表者 秋田朝美 経済学研究科

コメンテーター 久保亨 信州大学

2018-11-16

1910年代中国の米禁と1918年対日米穀輸出問題

発表者 堀地明 北九州市立大学

コメンテーター 木越義則 名古屋大学

2018-12-07

1950～70年代の中国の綿製品輸出について —日本紡績協会の調査から見えるもの

発表者 富澤芳亜 島根大学

コメンテーター 渡邊純子 経済学研究科

2018-12-21

近代北京における肺結核予防治療の出発と展開:1930年代を中心として

発表者 瞿艶丹 文学研究科

コメンテーター 蒲豊彦 京都橘大学

2019-01-18

「アート・スペース」としての 日中戦争期の中ソ文化協会

発表者 漆麟

コメンテーター 呉孟晋 京都国立博物館

2019-02-01

英領西インド諸島における中国移民の社会的地位向上:1930-40年代の分析を中心に

発表者 園田節子 兵庫県立大学

コメンテーター 原不二夫

2019-02-15

日本軍占領下のアモイと日本仏教の宣撫工作——真宗大谷派の神田恵雲を中心に

発表者 坂井田夕起子 愛知大学

コメンテーター 松金公正 宇都宮大学

2019-02-22

ある宣撫官の長い道のり——戦犯・笠実の日中戦争

発表者 太田出 人間・環境学研究科

コメンテーター 大澤武司 熊本学園大学

2019-03-01

清末日本の蚕糸業学校に学んだ中国人留学生について

発表者 王怡然 人間・環境学研究科

コメンテーター 富澤芳亜 島根大学

8. 共同研究会に関連した公表実績

* 書評会: 上田貴子著『奉天の近代 移民社会における商会・企業・善堂』、評者(松重充浩・吉澤誠一郎)、

2018年6月24日

9. 研究班員

所内

村上衛、石川禎浩、岩井茂樹、籠谷直人、古松崇志、彭劍(招へい外国人学者)、漆麟(日本学術振興会外国人特別研究員)、安東強(招へい外国人学者)、王剛(招へい外国人学者)、趙曄(研究生)

学内

貴志俊彦(地域研究統合情報センター)、小島泰雄(人間・環境学研究科)、高嶋航(文学研究科)、江田憲治(人間・環境学研究科)、秋田朝美(経済学研究科)、郭まいか(文学研究科)、谷雪妮(文学研究科)、都留俊太郎(文学研究科)、李ハンキョル(文学研究科)、凌鵬(社会学系)、駒込武(教育学研究科)、奈良岡聰智(法学研究科)、彭鵬(人間・環境学研究科)、王天馳(文学研究科)、上島享(文学研究科)、北村由美(附属図書館)、太田出(人間・環境学研究科)、瞿艷丹(文学研究科)、潘藝心(人間・環境学研究科)、鈴木秀光(法学研究科)、呉舒平(法学研究科)、Steven Ivings(経済学研究科)、巫靚(人間・環境学研究科)、王怡然(人間・環境学研究科)、塩出浩之(文学研究科)、張子康(文学研究科)、小堀慎悟(文学研究科)、楊峻懿(人間・環境学研究科)、久保田裕次(大学文書館)

学外

山崎岳(奈良大学)、石川亮太(立命館大学)、上田貴子(近畿大学)、易星星(兵庫県立大学)、大坪慶之(三重大学)、岡本隆司(京都府立大学)、荻恵里子(京都府立大学)、小野寺史郎(埼玉大学)、片山剛(大阪大学)、加藤雄三(専修大学)、金丸裕一(立命館大学)、蒲豊彦(京都橘大学)、菊池一隆(愛知学院大学)、木越義則(名古屋大学)、楠原俊代(同志社大学)、小林亮介(九州大学)、兒玉州平(九州産業大学)、柴田陽一(摂南大学)、坂井田夕起子(愛知大学)、城地孝(同志社大学)、城山智子(東京大学)、園田節

子(兵庫県立大学)、瀧田豪(京都産業大学)、田口宏二郎(大阪大学)、田中剛(帝京大学)、団陽子(神戸大学)、陳来幸(兵庫県立大学)、富澤芳亜(島根大学)、豊岡康史(信州大学)、西山喬貴(University College London)、根無新太郎(京都府立大学)、狭間直樹(京都大学)、浜田直也(神戸女子大学)、細見和弘(立命館大学)、堀地明(北九州市立大学)、松村 光庸()、丸田孝志(広島大学)、三田剛史(明治大学)、宮内肇(立命館大学)、村尾進(天理大学)、望月直人(大阪経済法科大学)、森時彦(京都大学)、森川裕貫(関西学院大学)、吉田建一郎(大阪経済大学)、吉田豊子(京都産業大学)、劉雯(兵庫県立大学)、鷺尾浩幸(北海道大学)、彭浩(大阪市立大学)、篠原由華(同志社大学)、木村可奈子(名古屋大学)、岩本真利絵(大谷大学)、奥村哲(首都大学東京)、梶谷懐(神戸大学)、箱田恵子(京都女子大学)、濱島敦俊(大阪大学)、平井健介(甲南大学)、山本一(立命館大学)、森万佑子(京都府立大)、村田雄二郎(同志社大学)、土居智典(長崎外国語大学)、金順姫(朝日新聞)、小野達哉(同志社大学)

10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数	参加人数				延べ人数			
		総計	外国人	大学院生	若手研究者	総計	外国人	大学院生	若手研究者
所内	1	11 (3)	3 (2)	0	2 (1)	97 (23)	45 (5)	0	27 (16)
学内	5	23 (9)	9 (4)	7 (4)	0	192 (74)	87 (37)	129 (55)	0
国立大学	8	9 (0)	2 (0)	0	0	25 (0)	0	0	1 (0)
公立大学	5	6 (1)	0	1 (1)	1 (1)	14 (1)	2 (0)	0	6 (0)
私立大学	18	22 (6)	0	1 (0)	0	84 (19)	0	1 (0)	0
大学共同利用機関法人	1	1 (0)	1 (0)	0	0	1 (0)	1 (0)	0	0
独立行政法人等公的研究機関	2	2 (0)	0	0	0	2 (0)	0	0	0
民間機関	2	2 (2)	2 (0)	0	0	2 (0)	2 (0)	0	0
外国機関	2	2 (0)	2 (0)	0	0	2 (0)	2 (0)	0	0
その他	1	1 (0)	0	0	0	1 (0)	0	0	0
計	45	79 (21)	17 (6)	9 (5)	3 (1)	422 (121)	137 (42)	130 (55)	34 (16)

※()内には、女性数を記載

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

参加研究者がファーストオーサーであるものを対象

総論文数	71(62)
国際学術誌に掲載された論文数	0(0)

※()内には、拠点外の研究者による成果(内数)を記載

インパクトファクターを用いることが適当ではない分野等の場合

掲載雑誌	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名
史林	3	長崎の聖堂と孔子廟——日中の近世と近代	<u>岡本隆司</u>
歴史学研究	2	二林蔗農事件の背景の再検討—地域史からみた日本統治期台湾農民運動—	<u>都留俊太郎</u>
東洋史研究	2	毛沢東の物語の成立と展開 —日中戦争から建国初期	<u>丸田孝志</u>
清史研究	1	〈孝经〉与清代科举考试	安東強

※拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す

12. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由
なし

13. 次年度の研究実施計画
なし

14. 次年度の経費
なし

15. 研究成果公表計画および今後の展開等
最終報告書に記載